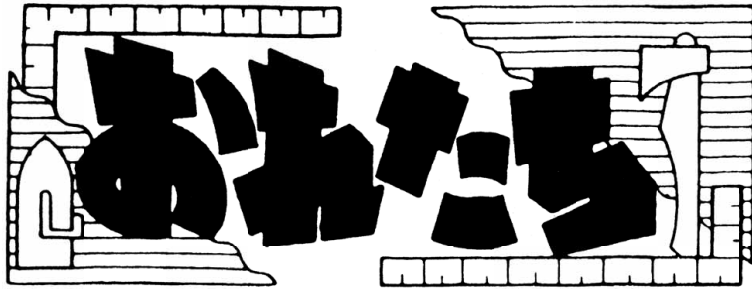


無料法律相談日の案内

6月21日(金)14時～16時

希望者は前日までに予約を

5月当初組合員数＝1821人（-5人）



発行所
東京土建一般労働組合荒川支部
東京都荒川区荒川6-3-1
TEL(3892)9131 FAX(3892)9381
発行者・津田宗久／編集長・小熊賢一
<http://www.doken-arakawa.org/>

東京土建荒川支部第76回定期大会

新たな方針で団結し増勢を

4月14日(日)、けんせつプラザ東京で荒川支部第76回定期大会を開催しました。司会是小熊賢一副執行委員長が務め、瀧口勝大会運営委員長の宣言で始まりました。議長には磯部正三さんと八木橋郁子さんが選出されました。

津田宗久執行委員長からは、秋の拡大を7年ぶりに達成できたこと、100万人署名の目標を達成できたことに対する感謝の言葉の後「春の拡大月間では目標を達成し



最後は団結ガンバローで意思統一しました



これからの組合について
訴える田村後継者対策部長

Q. 保険料が毎年上がっているが、いつまで、どこまで上がっていくのか

A. 年齢制限については以前からそのような声が挙がっており、今年度、後継者対策部では年齢制限を設けないバーベキューレクを企画しているの

で是非参加してもらいたい。Q. 保険料が毎年上がっているが、いつまで、どこまで上がっていくのか

A. 年齢制限については以前からそのような声が挙がっており、今年度、後継者対策部では年齢制限を設けないバーベキューレクを企画しているの

で是非参加してもらいたい。Q. 保険料が毎年上がっているが、いつまで、どこまで上がっていくのか



津田執行委員長の挨拶の様子

A. 人口減少も影響しており、土建国保だけが上がっているわけではなく、また、どこまで上がるのかも分からない。これ以上の値上げにならないよう、ハガキ要請行動等、皆さんにも協力をお願いしたい。

Q. インボイスの実務対応については具体的にどのように対応していくのか？

A. 相談があるたび個別に対応していく、制度自体に大きな変更等があれば学習会等を開いて皆さんに周知していきたい。

その後、財政報告及び会計監査報告が行われ予算案提起が行われました。

力していききたい。土建国保は自分自身が良い制度だと思いうからこそ周知を徹底していきたい」と強い訴えがありました。



新たな参加者から質問も挙がりました

午後の部は、各専門部から基調報告に対する補足・方針提案が行われました。

その中、服部和美から基調報告に対する補足・方針提案が行われました。

その後、財政報告及び会計監査報告が行われ予算案提起が行われました。

その後、2023年度の運動経過報告及び財政報告の承認、2024年度運動方針案及び予算案の採択が行われ、表彰、役員選出、大会スローガンの提案・採択と順調に議事は進み、最後に五箇谷日出雄副執行委員長による閉会挨拶、団結ガンバローで終了しました。

参加者は全体で67人(来賓・書記含め)でした

2024年度支部役員

執行委員長

津田 宗久(東尾久1)

副執行委員長

小熊 賢一(東尾久1)

五箇谷 日出雄(荒川)

澤元 達雄(町屋南)

書記長

吉田 和馬(書記局)

書記次長

泉 沙織(書記局)

常任執行委員

田村 高広(東尾久1)

五十嵐 信雄(荒川)

八木 博行(南千住)

大橋 正博(事業所)

服部 和美(事業所)

常任執行委員待遇

相樂 由美子(サ・レ)

ディース荒川)

会計監査／執行委員待遇

加藤 正雄(荒川)

沖田 義成(南千住)



後継者世代の新たな仲間も参加しました

昨秋に続き連続達成で組織増を勝ち取ろう

4月11日、荒川支部会館3階で春の拡大決起集会が行われました。

今回は10分会中9分会が成果を持ち寄り、さらに日暮里2分会は決起集会時には既に目標を達成するという快挙を上げ、好調なスタートダッシュを切ることが

出来ました。その為、会場の雰囲気も明るく大いに賑わい、支部目標達成を目指し意思統一をしました。決起集会終了後も、思いの丈を熱く伝える方も数名いらっしゃいました。

参加者数も過去最多の40人書記含めでした。

5月3日時点	目標数	成果
西尾久	10	4
東尾久1	5	4
東尾久2	5	3
荒川	8	4
町屋北	6	1
町屋南	6	4
日暮里1	4	
日暮里2	6	6
南千住	6	2
事業所	8	5
直属	1	1
合計	65	34
ザ・レディース荒川	12	6
青年部	4	8
荒友会	8	6



早期達成に思わず笑みがこぼれます

中村哲の平和観 「平和とは観念ではなく実態である」

【竹達浩通信員・南千住分会】「平和を創り出す人

たちは、幸いである、彼らは神の子と呼ばれるであろう(マタイ5・9)」戦争のない世界は全人類の願いです。しかし現実には地上から戦争が絶えることはありません。

果たして人類は、平和を「創り出す」こと、即ち、平和を構築するために、戦争を根底から「消滅」させることができるのか、この問題は人類の、継続的実践課題であります。

昨年12月9日、蓮田市・蓮田駅西口行政センターで開催された、第42回「平和のための蓮田戦争展」実行委員会主催の、「医師中村哲さんの思いと活動の写真展・講演会」取材しました。

共に生きるために

この平和のための戦争展の特色は、悲惨な戦場の様子を訴える展示物はなく、展示されているものは一人の医師として中村哲(以下、中村とする)さんがア



中村哲さん
(Wikipediaより)

フガニスタンの人々の命を助け、平和を築く過程の記録写真でした。

中村さんは1973年、九州大学医学部を卒業、国内病院勤務のち、1984年、日本キリスト教海外医療協力会から派遣されて、パキスタン北西部のペシャワールに赴任。以来、パキスタンとアフガニスタンのハンセン病を中心に、35年間医師として、人々と共に生きるための医療環境整備、生活用井戸、農業用水路工事などに従事しました。

しかし、アフガニスタンの干ばつは深刻です。中村さんはきれいな水を求めて1600本の井戸を掘りましたが、地下水位の低下を危惧した政府によって工事は中止に追い込まれました。アフガニスタンの総人口の7割が農業人口と言われ、農耕地の砂漠化によって、仕事を失った農民は、家族の糧を得るために、米軍の傭兵、タリバンの傭兵、反タリバンの傭兵となつて戦場に行く。悲惨な現実です。

命は水である 水が欲しい

近年のアフガニスタンは、旧ソ連に1978年、1989年まで軍事侵攻され、アメリカは、2001年、2002年まで20年間に及ぶ軍事侵攻、その中に内戦を含めて、43年間も戦乱が続きました。

長年の戦禍による経済破綻、インフラの破壊、更に、異常気象による干ばつで、農地の砂漠化。食糧難、住民の難民化、難民の高率罹病、死亡者増加。以上の社会情勢を見て、中村さんは、今、アフガニスタ

ンに最も必要なものは兵器ではなく、「水」であると思うのです。

中村さんは、「小さな子供が、道端の不衛生な溜り水を飲み、下痢で死んでいく現実。医療だけでは人の命を救えない、医者100人よりも、きれいな水があると助かる命です」といいました。

しかし、アフガニスタンの干ばつは深刻です。中村さんはきれいな水を求めて1600本の井戸を掘りましたが、地下水位の低下を危惧した政府によって工事は中止に追い込まれました。アフガニスタンの総人口の7割が農業人口と言われ、農耕地の砂漠化によって、仕事を失った農民は、家族の糧を得るために、米軍の傭兵、タリバンの傭兵、反タリバンの傭兵となつて戦場に行く。悲惨な現実です。

甦る大地 平和

水が欲しい。用水路が欲しい。用水路があれば、何十万の人々に命と平和が戻ってくる。中村さんは、激しい想いで、人知を超えた想いで行動を起こし、村人を説得し了解を得て、工事

に着工しました。中村さんの熱意と真剣な姿を見て、村の人達も、積極的に協力しました。

着工から7年、完成した水路は25キロ以上に伸び、水路周辺の60万以上の人々の生活は回復、また、水路際に水害防止用に植えられた紅柳の、木も大きくなり昆虫が生き、それを求めて鳥が来る。

水路の開通によって緑は回復、虫の音、鳥の声、子供の声、そして生活の音が聞こえ、自然の循環が正常運行。中村さん曰く、「人間は自然の恵みで生かされている。開発という名の下に、自然が破壊され、戦争が起きる。自然を修復しようと思えば、戦争をしている暇などない。口では平和を叫ぶが、平和とは観念ではなく、全ての実態で有り実態の安寧である」。

お詫びと訂正

おれたち666号2面の「分会総会の様子」、及び「わたしのペット自慢」につきまして分会名に誤りがありました。正しくは「分会総会の様子」の佐藤一博さんの所属分会は「東尾久1分会」ではなく「東尾久2分会」、「わたしのペット自慢」の阿川達雄さんの所属分会は「日暮里1分会」ではなく「日暮里2分会」となります。ご迷惑をおかけし申し訳ございません。再発防止に努めます。